

城西人文研究 既刊総目次

創刊号 (1973年)

序	武市春男
『城西人文研究』の創刊に際して	蒔田栄一
ニーチェとキリスト教倫理	木阪昌知
マヤの石造建築における「持送りアーチ」について	貞末堯司
意味と認識	
——パース研究(4)——	西勝忠男
シーハラヴァットパカラナ訳註(Ⅱ)	
——第1章 第3・4・5話——	森祖道
独白と対話	
——ジョイスとペローの距離——	茂呂公一
ポーにおけるグロテスクとアラベスク	水田宗子
内村鑑三おぼえ書き(その八)	岩谷元輝
人間の社会的構造と疎外	松浦孝作
『靈魂の系図』について	
——Carlyleを中心として——	松田福松
カフカの世界	
——非ユダヤ的ユダヤ人——	山口勲

第2号——蒔田栄一教授追悼論文集—— (1974年)

巻頭言	武市春男
バスク語の単文における語順の文体的価値について	堀田郷弘
内村鑑三おぼえ書(その九)	岩谷元輝
精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1)	木阪昌知
『サムラー氏の惑星』試論	森哲夫
「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考	太田広
宗教史にみる日本的均衡のメカニズム(Ⅳ)	
——マーケティングと宗教の関連において——	渡辺好章
遠近法と身体性について	山口勲
同一性(アイデンティティ)に関する諸問題——その一——	帆足喜与子
涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻——	黄色瑞華

「紙」以前の書写の用材について	井	口	大	介
故蒔田栄一教授 追悼	松	田	福	松
ああ蒔田栄一先生よ	伊	部	政	一

第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

アンデス古代文明の諸問題	貞	末	堯	司
発見の哲学——パース研究（6）——	西	勝	忠	男
首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——	田	村	正	夫
鉄齋と華山	小	野		浩
日本民主主義研究序論	森	田	昌	幸
遠近法と身体性——その哲学的意味——	山	口		勲
<i>Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's The Bell Jar and Joan Didion's Play It As It Lays</i>	水	田	宗	子
『おらが春』の素材	黄	色	瑞	華
日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで——	堀	田	郷	弘
ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識——	茂	呂	公	一
作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”——	萩	原	博	子
司馬遷論	黒	羽	英	男
三代日本主義の系譜について	松	田	福	松

第4号（1977年）

論理の自律性について——パース研究（7）——	西	勝	忠	男
カントの「定言命法」	山	口		勲
中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした——	貞	末	堯	司
クレアラ・アン・ペイター覚え書	萩	原	博	子
『教育者としてのショーペンハウアー』から ——ニーチェと自然——	河	内	信	弘
アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動	堀	田	郷	弘
アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学——	陶	山		曠

冷たき牧歌

- キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて——……………永井豊実
『おらが春』の素材（続）……………黄色瑞華
歌人「安江不空」……………小野浩

第5号（1978年）

- 南アメリカの考古学史……………貞末堯司
Manorathapūrani 源泉資料年代論……………森祖道
大学英語教育の問題点（上）……………鮫島久男
クレアラ・アン・ペイター覚え書（Ⅱ）……………萩原博子
『シンベリン』、皮肉な遊戯……………戸所宏之
カフカ研究の視座を求めて……………山口勲
東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説（1960年2月22日）と
東京羽田空港におけるインタビュー（2月29日）……………堀田郷弘
アンドレ・ジッドの方法（Ⅲ）……………陶山睦
ニーチェと自然（一）……………河内信弘
『おらが春』第一話の設定をめぐって……………黄色瑞華

第6号（1979年）

- ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために……………山口勲
パーソナリティテストとしての SCT に関する一考察
——特に応用とその解釈をめぐって——……………駒崎勉
ジェイムズ・ジョイスの手法について（1）
——我国におけるジョイス評価の推移——……………茂呂公一
A Textual History of Walter Pater's
Renaissance……………Hiroko Hagiwara
マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」——……………小野昌
ニーチェと自然（二）——『悲劇の誕生』——……………河内信弘
全集本『おらが春』について……………黄色瑞華

第7号（1980年）

- ヤスパースとフッサール
——精神病理学の哲学的基礎——……………山口勲
PANTUN——puisi dan puisi rupa——……………黄色瑞華
国際水利法に関する一考察……………土屋生

ジェイムズ・ジョイスの手法について (II)

——我国におけるジョイス評価の推移——……………茂 呂 公 一

The Development of the Audiolingual Approach

——Trends in Language Methodology in the United States——

……………Fumiko Tamura

『空騒ぎ』の冥と光——像りの力学——……………戸 所 宏 之

「エンディミオン」における映像のあり方……………永 井 豊 実

『ヴェニス商人』における Venture について……………小 野 昌

カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉——……………村 岡 正 明

アンドレ・ジッドの方法 (IV)——生命の美学——……………陶 山 曠

「騎士と死神と悪魔」

——『悲劇の誕生』におけるデューラーの銅版画をめぐる——

……………河 内 信 弘

第 8 号 (1981年)

ウィトゲンシュタインのケムブリッジ……………山 口 勲

アメリカ文化論 (I)……………小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三

シャルル・モーロンの「精神批評」(1)……………越坂部 則 道

「高き山々の頂きから」

——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み——……………河 内 信 弘

思想家としてのニーチェ……………小 野 浩

『四山藁』の俳論……………黄 色 瑞 華

第 9 号 (1982年)

アメリカ文化論(II)……………金 勝 久

ジョイスのパドバ・エッセイについて……………茂 呂 公 一

アンドレ・マルローの最初の美術論

《*La Peinture de Galanis*》(1922) について

——マルローの初期の美術論の研究(前)——

……………堀 田 郷 弘

シャルル・モーロンの「精神批評」(2)……………越坂部 則 道

教育場面における夢の活用(I)

——その背景としてのフロイトとユング——

……………細 部 国 明

身・語・意の三業 (tiṇi kammāni) と carita, saṅkhāra, samācāra

……………池 田 練 太郎

詩的コスモゴニーへの論理
——ランボー詩の内的世界——

-川那部 保 明
 ハイデガー先生の想ひ出.....小 野 浩
 [研究ノート]
 俳諧連歌における謡曲の文句取り(一).....黄 色 瑞 華

第10号(1983年)

- ウイトゲンシュタイン：太洋の測量技師
 一逆限定のパトス.....山 口 勲
 アメリカ文化論(Ⅲ).....金 勝 久
 ジョイスのディケンズ・エッセイについて.....茂 呂 公 一
 教育場面における夢の活用(Ⅱ)
 一夢と宗教.....細 部 国 明
 Zur Entwicklung der deutschen Sprache in der DDR
Kuniomi Uchimura

『失われた時を求めて』における作中人物の出現と

- 話者のまなざし.....北川原 哲 夫
 カミュと〈他者〉.....村 岡 正 明
 [書 評]

(I) LE DASAVATTHUPPAKARANA

Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE

(II) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA

Texte pāli et traduction par Jacqueline VER EECKE

-森 祖 道
 [研究ノート]
 渭浜庵執筆一茶.....黄 色 瑞 華